

横島小からの風28



<http://es.higo.ed.jp/yokoshimaes/>

横島小学校だより 第7号(0722)

1 前期前半が終了しました。

激動の前期前半でした。4月の入学式が遠い過去のように思えるような、いろいろと困難なことがあった前期前半でしたが、保護者の皆様の厚いご支援とご協力の下で、一つ一つの行事を、昨年並みではなく、昨年以上に充実させようとした職員の踏ん張りも見ることができ、子どもたちの一生懸命さとともにとても印象に残った前期前半でした。

4月14日と16日に起こった「激震」後、職員、子どもだけでなく、保護者、地域の方々も一緒になって一致団結して迎えた運動会など、「横島の宝」がたくさんできました。

4月



歓迎遠足
の一コマ



1年生、初めてのランチルームでの給食です。実はこの日の夜、1回目の激震が熊本を襲いました。

5月



交通教室：高学年は自転車の乗り方、低学年は横断歩道の渡り方を中心に指導していただきました。

運動会：雨で一日順延となった運動会でしたが、子ども、職員、保護者、そして地域の方々の熱い声援で大成功の運動会でした。



6月



県警本部鑑識課による出前授業：熊本県警察本部鑑識課より横島小学校の子どもたちのために、警察犬も連れてきてくださり、出前授業を実施することが

できました。警察犬の仕事ぶりを学習すると同時に、6年生は指紋検出の体験をするなど、深く学ぶことができました。社会の役に立つという、崇高な精神を身に付けてくれたらと思います。



校内童話発表会：各学年の代表が全校児童の前で発表しました。表現力を身に付けることは、現在の教育では大変重要視されています。

7月



運営委員会始動：「立止一礼」「無言掃除」の徹底を期すために、幟の設置を運営委員会がしてくれ

に！



前期前半のまとめ：各学年とも夏休み前のまとめの時期に入り、とても頑張っていました。梅雨も明け、暑い日が続いていましたが、みんな頑張っていました。

親の頑張り



PTAビーチバレー：学級の名誉にかけて……??とても楽しい一時になりました。横島小学校のPTAが一つになれたような、爽やかな疲れが残りました。

2 夏休み前全校集会

長い夏休みに入ります。この夏休み期間は、ご家庭で過ごすことが中心になります。夏休み明けに、全員がそろって登校できるよう、安全に過ごしてくれることを切に願っています。

一人一人が命を大切に、充実した夏休みを送ってほしいと思います。

今日の夏休み前全校集会で、みんなに話したことを以下に記します。

長い夏休みに入る前に、横島小学校のみなさん全員にこれからする話を一人一人の心の中に入れてくれると、たいへん嬉しいです。

平成24年7月12日朝に起こった阿蘇の大水害のことは知っていますか？九州北部豪雨といいますが横島小学校の近くも、被害があったのではないかと思います。

校長先生の住んでいる阿蘇市の方では、たいへん大きな被害が出ました。

この新聞記事を見てください。 **熊日朝刊の記事**

「突然の死、悲しみ深く」と書いてありますね。7月12日の朝早く、阿蘇市の坂梨というところで、大雨による土砂崩れが発生し、この現場では5人の人が犠牲になりました。この記事は、その5人のうちの一人の人の新聞記事です。

この写真の人は、この年の3月に大学を卒業し、働き始めたばかりだそうです。一緒に働いていた人によると、何事にも一生懸命で何でも頑張る人だそうです。別の人は、明るくて面白い人ですが、やるときはやる人。とも言っています。まだ、23歳になったばかりで突然命を奪われることになって、本当に悔しいだろうと思います。また、お父さんやお母さん、親戚の人、友達、知人の人たちにとっても残念で悔しい死だろうと思います。実は、この写真の人は、KSさんは校長先生が初めて1年生を担当したときの子どものです。

この子はね、1、2年生の頃は水泳が嫌い、ぶるぶる震えて先生にしがみついていた子でした。最初は先生が抱っこして、やっと水に入ることができた子です。

先生もどうにかしたいと思ってね、キャンプ用の三角テントを立てて、家から持ってきた子ども用のビニールプールをその中に入れてお湯をたっぷりつくっておいてね、寒くなったらその中に入れてあげて何とか水泳や水遊びが好きになるように工夫したことを思い出します。

できたら、クラス会の時にでもそんな話をしてあげたいと思うのですが、もうそれは叶いません。どんなに名前を呼んでも、KSさんは校長先生の前に現れてはくれません。

先生がどんなに会いたくても、もうKSさんには会えないのです。

みんないいですか。命は一つしかないのです。自分の命や友達の命を大切にしていますか。分かりやすく言い換えますね。

自分のことや、友達のことを大切に思っていますか。特に、友達の悪いところばかりあげて、責めてはいませんか？自分の失敗は許すのに、友達の失敗を許さないという人はいませんか？

先生はもうKSさんに話しかけることができません。励ますことも、叱ることも、一緒に笑いあうこともできません。あの時、もっと優しくすれば良かったとか、もっと、水泳を好きにする教え方があったかもしれないと思っても、どうすることもできません。

校長先生はKSさんのお葬式に行ってお線香を上げながら、「水泳を好きにさせることができずにごめんね。」と言いました。

みなさん、校長先生の願いを聞いてください。それは、君たちの近くにいる友達を大切にしたいということです。長い夏休みに入る前に、あの時はごめんねと言うことがあったら、ぜひ勇気を持って言ってみてください。

同時に、長い夏休み自分の命を大切に安全に過ごしてください。ここにいるみんなと先生方が全員元気に、8月26日に会えるよう願っています。先生の話はこれで終わりです。

3 逆説的子育てその2

無気力なお子さんに育てたいとき

教育ジャーナル5月号より

「無視をするとよいです。あなたがどんなに感情を伝えても、誰も聞いてくれる人はいません。無駄なだけです。」

ということ、伝えてあげてください。そうすれば子どもは学びます。

自分は世の中に何を訴えても、仕方ない。私は役に立たない人間だということ。

学習性無気力といいます。

そんな子どもたちはやる気がなくなって当然ですよ。

「無視」というのは「知らないよ」をするばかりではありません。

子どもが一生懸命に伝えようとしているときに、話半分に聞いたり、途中でさえぎったり、後回しにしたり・・・それも無視です。(もちろん、約束をして、後から聞くことができるなら大丈夫です。)

無気力な子どもたちは、大きな傷つきをもった子どもが多いです。

いじめを受けている子どもたちや被災をした子どもたちも同じ状態になります。

※夏休みを安全にそして充実したものにするために、保護者の皆様や地域の皆様とともに、見守っていきたいと思います。夏休みはご家庭で過ごすこととなりますので、どうぞよろしくお願ひします。

※学校だより「横島小からの風」は、本校HPでも見ることができます。

<http://es.higo.ed.jp/yokoshimaes/>